

[成果情報名] 諫早湾干拓地の初期営農における露地野菜(葉茎菜類)の栽培適応性

[要約] 諫早湾干拓地の初期営農における栽培適応性は早生タマネギで「高い」、年内穫りレタス、2月穫りブロッコリーは「並」、冬キャベツ、秋冬ハクサイでは目標収量を得られ難いが、肥培管理技術の改善や熟畑化の進行により生産性がより向上する可能性がある。

[キーワード] 諫早湾干拓地、露地野菜、タマネギ、レタス、キャベツ、ブロッコリー、栽培適応性

[担当] 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

[連絡先] 電話0957-35-1272、電子メールkurokawa1101@pref.nagasaki.jp

[区分] 総合・営農(干拓・野菜)

[分類] 指導

[背景・ねらい]

造成直後の諫早湾干拓地は、塩分濃度が高く排水性の劣る細粒土壌で、熟畑化の過程にある。そこで、畑作営農技術の早期確立を目的として、初期営農を想定し、主要な葉茎菜類である早生タマネギ、年内穫りレタス、冬キャベツ、2月穫りブロッコリー、秋冬ハクサイについて栽培適応性を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．早生タマネギは県基準技術目標収量(以下、目標収量)と比較して総収量、商品化率及び秀品率がほ場整備直後から高く、単価の高い中心となり、干拓地での栽培適応性は高い(表1、表2、図1)。
- 2．レタス及び2月穫りブロッコリーは収量変動はあるものの、概ね目標収量が確保でき、品質も良く栽培適応性は認められる(表1、図1)。
- 3．冬キャベツ、秋冬ハクサイは、県栽培基準に準拠した栽培方法では、目標収量を得られないか、または低い場合がある(表1、図1)。しかし、キャベツでは目標収量比の148%の事例がみられることから肥培管理技術の改善や熟畑化の進行により生産性がより向上する可能性がある。

[成果の活用面、留意点]

- 1．初期営農の作物選定における基礎資料として活用できる。なお、成果情報名「諫早湾干拓地の初期営農における露地野菜(根菜・いも類)の栽培適応性」を併せて活用する。
- 2．営農排水の促進するため、2001年に本暗渠を5mピッチに増設し、それに直交した初級補助暗渠とほ場周辺に排水溝を設置し、また、緑肥作物の栽培及びほ場還元による熟畑化に努めた。さらに、畦形成時には必要に応じて降雨前にビニル被覆し、数回のロータリ耕により碎土性を向上させた条件で栽培した。
- 3．干拓地の初期営農においては、既耕地に比べて降雨後の排水不良による機械利用の制限、土の練り返しにより収量が低下する場合が多くなる可能性がある。

[具体的データ]

表1. 干拓地における総収量、品質割合(個数%)等

品目	植付年	総収量 (kg/a)	品質割合(個数%)			
			A品 (%)	B品 (%)	C品 (%)	外品 (%)
早生タマネギ	01	679	67	30	1	3
	02	887	83	10	0	5
年内穫りレタス	00	337	95	0	-	5
	01	489	86	4	-	10
冬キャベツ	01	493	100	0	-	0
	02	547	84	3	9	3
2月穫り	00	115	-	-	-	-
ブロッコリー	01	134	-	-	-	-
秋冬ハクサイ	00	835	-	-	-	-
	01	507	-	-	-	-

表2. 早生タマネギの階級割合(個数%)

品目	年度	3L	2L	L	M	S	2S	くず
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
早生タマネギ	01	0	3	41	38	16	2	0
	02	1	36	37	18	5	1	0

02年は重量%

注1) 品質については系統出荷基準に基づき選別し、A品:品質、形状良好なもの。B品:A品に次ぐもの。C品:出荷可能なもの。外品:出荷できないもので区分した。特に葉菜類では箱詰め出荷するため階級割合でなく品質割合を掲載した。

注2) 2000年は、ほ場整備直後で土壌の改良が行われておらず、基幹排水路が未整備であり常に溝は乾かず、11月上旬には浸水するなど排水が非常に悪い状況であった。また、2000年は本暗渠間隔のピッチは10mであった。

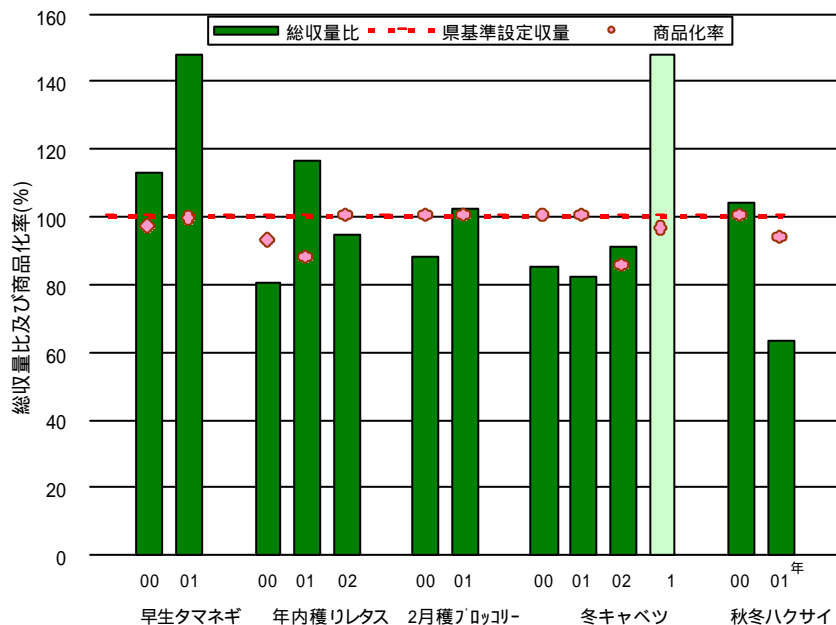
注3) 耕種概要は概ね県栽培基準に準じ、下表のとおりである。また、表記している西暦は植付年である。

品目	品種	施肥条件 (N-P-K) (kg/a)	栽植密度概数 (本/a)	播種 植付 - 収穫期
早生タマネギ	七宝早生	2.3-2.5-2.3(0)	2800	11月下旬 - 4月下旬 ~ 5月上旬
年内穫りレタス	(2)	2.0-2.5-2.0(0)	700	9月下旬(4) - 11月中旬 ~ 12月中旬
冬キャベツ	金系201	3.0-2.5-2.5(0)	380	9月下旬(5) - 1月中旬(6)
2月穫りブロッコリー	(3)	3.0-2.5-3.0(0)	380	9月下旬 - 2月中旬
秋冬ハクサイ	黄ごころ85	3.0-2.5-2.0(0)	360	9月下旬 - 1月中旬(7)

1: 施肥量、堆肥は長崎県農林業基準技術に準じ、硫安(21-0-0)、重過磷酸石灰(0-34-0)、硫酸加里(0-0-50)で調整し、CaとMgは無施用とした。

2: レタ品種は、極早生シスコ(00)、ステディ(01)、マイヤー(02)。 3: ブロッコリーの品種は、ビックドーム(' 00)、エンデバー(' 01)

4: 10月上旬(' 00)、 5: 9月中旬(' 01)、 6: 2月上旬(' 00)、12月上旬(' 01)、 7: 2月上旬(' 01)



1は冬キャベツの高収量事例であり、区の概要は栽植は476株/a、施肥量(kg/a)はN2.5(1.5+0.5+0.5) - P2.5 - K2.5の密植、分施肥系である。

図1. 干拓地における総収量比と商品化率

予算区分: 県単(一部国庫)

研究課題名: 諫早湾干拓営農対策試験・営農対策試験

研究期間: 2000~

研究担当者: 黒川陽治、飯野慎也、寺井利久

発表論文等: 九州農業研究第65号